

西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様

第 1 号

1986年 4月

岡山県古代吉備文化財センター

発刊によせて

北は中国山脈を背にし、南は瀬戸内海に開けた岡山県は、肥よくな土地と豊かな自然に恵まれて、吉備の国に象徴されるように古くから文化が栄えた地域であり、わが国の歴史・文化を物語る貴重な文化財が数多く残されております。

近年における社会経済の著しい発展に伴い、本県でも各種公共事業をはじめ地域開発事業が急速に進展し、それに伴って埋蔵文化財の発掘調査も増加の一途をたどってきておりますが、これら開発との調整をはかりながら埋蔵文化財を保護保存することが重要な課題となってきました。

岡山県古代吉備文化財センターは、埋蔵文化財の保護保存をはかるための本県の拠点施設として、発掘調査をはじめ出土品の整理、研究、収蔵、保護についての普及啓発などを目的として昭和59年11月に設置されました。

このたび発刊しました「所報吉備」は当文化財センターの普及啓発活動の一環であり、センターの事業、発掘調査・研究の概要などの情報を随時提供していきたいと考えております。

今後、この「所報吉備」を通じて埋蔵文化財の保護についての理解を深めていただくとともに、当文化財センターに一層の御指導、御協力をいただければ幸いに存じます。



岡山県古代吉備文化財センターの紹介

◆施設の概要

当文化財センターは岡山駅から西へ約8km、古くから歌枕などで全国的に知られている「吉備中山」の南山腹に位置しています。この地域一帯は吉備史跡県立自然公園に指定されており、付近には国宝の本殿、拝殿をもつ吉備津神社、備前一宮として知られる吉備津彦神社、国指定史跡の尾上車山古墳、陵墓参考地となっている中山茶臼山古墳などが点在し、文化的、歴史的に恵まれた環境のなかに所在しています。

施設としては、鉄筋コンクリート造りの2階（一部3階）の本館、旧吉備青年の家当時のものを転用した児童学習室、第二収蔵庫の三棟からなり総面積は約3,200㎡。総工事費約5億円で昭和59年10月に竣工しました。

外観は全体の色調をグレーと茶系統とし、屋根は緩い寄せ棟一部入母屋、壁面の一部に万成石、3階収蔵庫の窓は小庇をつけその面には二度焼窯変瓦を使用するなど付近の景観と調和させ、文化財関係施設にふさわしい造りとなっています。

本館の1階は事務室などの管理部門のほか展示室、特別収蔵庫で、2階は調査員室、資料図書室、遺物復元室、木器・鉄器処理室、研修室など調査研究部門を配しており、3階は2層構造の遺物収蔵庫となっています。

◆設置までの経緯

本県における埋蔵文化財保護行政は昭和45年に社会教育課から分離して文化課を新設、51年には岡山市西古松の旧ろう学校跡地に文化課分室を設置し、埋蔵文化財の発掘調査に対応してきました。しかし、この分室は応急的なプレハブ建物でもあり、年々増大する出土遺物の調査研究、保存処理、収蔵等に対処するには十分なものではなく、このような機能を備えた埋蔵文化財センターの設置が望まれていましたが、昭和59年11月1日に設置条例が施行され名実共に文化財センターが新発足しました。

これによって当文化財センターは主として発掘調査に係るものを担当し、埋蔵文化財の保護

に関する届出、調整・協議などの事務処理については従前通り文化課が行っています。

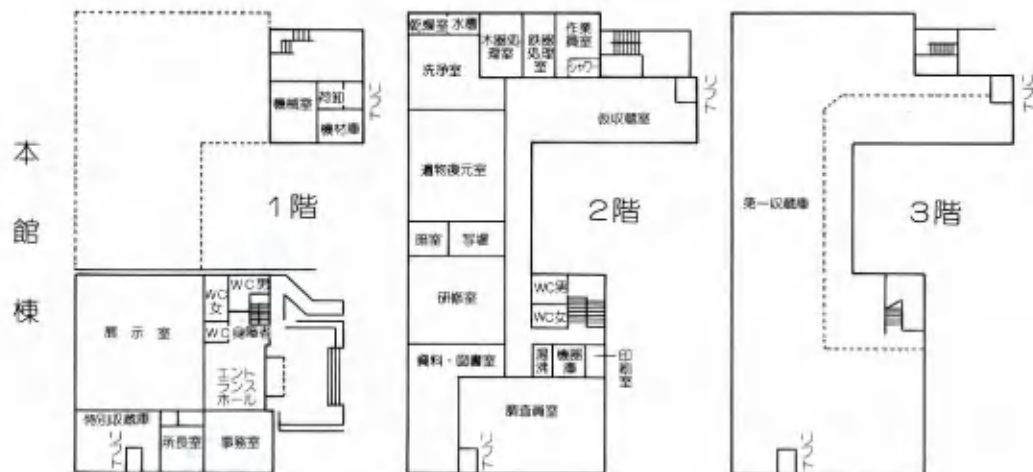
◆センターの業務

当文化財センターの業務としては、①遺跡の発掘調査、調査報告書の刊行など調査研究に関すること。②出土遺物の復元、木器・鉄器の理化学的保存処理と出土遺物の保管など整理収蔵に関すること。③市町村担当者を対象とする調査方法・技術研修会の開催、現地発掘調査指導、相談業務など研修指導に関すること。④出土遺物の公開展示、現地説明会などの開催、参考資料の一般公開など普及啓発に関することなど大きく分けて四業務を行っています。

現在発掘調査中の主なものは、旭川放水路改修に伴う百間川遺跡群、山陽自動車道建設に伴う笠岡市鍛冶屋遺跡、園井土井遺跡、倉敷市首生小学校裏山遺跡、本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う菰池遺跡等、足守川河川改修に伴う足守川加茂A・B遺跡などとなっています。

そのほか普及啓発事業としては、本館1階に180㎡の展示室を設け、先土器時代から中世にいたる各時代の人々の暮らし、文化などを展示し自由な見学に供しています。また、展示室内には埋蔵文化財保護についての諸手続き、県内遺跡の状況、保存実態などのパネルコーナーを設け保護についての普及啓発をはかっています。団体観覧等の場合は希望により洗浄室、復元室などの見学、研修室でスライド等を使っての考古学学習も行い、さらに資料図書室では全国の発掘調査報告書約3,000冊を備え希望者には公開するとともに考古学についての一般相談にも対応しています。

埋蔵文化財保護行政をめぐる環境は最近大きく変わり、開発規制の緩和、調査方法・期間の見直しなど厳しい状況のなかにありますが、現在の我々には先人の残した貴重な文化遺産を後世の人々によりよいかたちで残す使命があり、このためさらに努力を続けていくとともに、それらを通じて県民文化の向上に寄与していきたいと考えています。



岡山県古代吉備文化財センター平面図



▲展示室



▲研修室



▲遺物復元室



▲洗浄室



▲資料・図書室



▲第一収蔵庫

センターの年間事業(昭和60年度)

昭和60年度に実施した当文化財センターの発掘調査事業概要は次のとおりです。大規模開発に伴う受託事業関係の発掘調査のうち、旭川放水路改修に伴う百間川遺跡群(岡山市)では当麻遺跡、今谷遺跡、沢田遺跡の三地区を調査しました。百間川当麻遺跡では広範囲にわたって、幅7m、深さ1.3mの運河によって画された中世村落(あるいは町か)の実態が明らかにされました。百間川今谷遺跡では下流部において新たに水田跡が確認されるとともに、昭和55年度に原尾島遺跡で確認されたと同様の稲株痕跡もみつけられました。百間川遺跡群では弥生時代の水田跡はすでに延々2km以上にわたり総面積45,000㎡以上発掘していますが、今谷遺跡下流部での水田の発見によって予想以上の拡がりをもつことがわかってきました。



▲百間川今谷遺跡の水田

山陽自動車道建設に伴う発掘調査は建設省施工区と日本道路公団施工区の二者に分けてそれぞれ調査しています。建設省関係では亀山遺跡(倉敷市)園井土井遺跡(笠岡市)鍛冶屋遺跡(笠岡市)を調査しました。園井土井遺跡は谷水田下に所在する中世館跡であることが判明しました。丘陵の東斜面を削平造成し、東側は柵列によって画した屋敷構えで、この屋敷地内に2棟の礎石建物や掘立柱建物、井戸等を検出しました。出土遺物から15世紀代の館跡と推定され、数少ない中世館跡の中でも礎石建物を有する遺跡として貴重です。鍛冶屋遺跡は昨年度の確認調査によって県南西部においては例の少ない製鉄遺跡と弥生時代～中世の集落跡が確認さ

れましたが、この段階では用地問題が未解決の所もあって、十分な調査ができませんでした。今年度は製鉄遺跡の全面調査と合せて確認調査の追加調査を実施しました。その結果21,700㎡にわたる調査対象地が確認されました。



▲園井土井遺跡・中世館跡

日本道路公団関係では菅生小学校裏山遺跡(仮称・倉敷市)が確認調査の後、引き続き全面発掘調査を実施しています。遺跡は東に面する山裾部に立地する古墳時代から中世の集落跡で、遺構はかなり削平されていて残りの状況はよくありませんが、遺物は銅印、須恵器、緑釉陶器、青白磁等豊富に出土しています。



▲「菅生小学校裏山遺跡」(仮称)出土の銅印

本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査では菰池遺跡(倉敷市)において、弥生時代中期の集落跡に加えて従来知られていなかった縄文時代早期の包含層(粗粒楕円押型文土器)も調査しました。

足守川河川改修に伴う発掘調査は加茂B遺跡(岡山市)とともに上流部に位置する加茂A遺跡(岡山市)の護岸工事区の調査が昭和61年1



▲菟池遺跡弥生時代中期の土境

月31日をもって終了しました。しかし、下流部の矢部南向遺跡（倉敷市）がまだ残されています。

受託事業以外の発掘調査については、四月早々からの新設総社南高等学校建設地の橘元遺跡の調査が予想外に複雑に拡がり、その上梅雨期の大雨に悩まされながらの調査で、総社市教育委員会の全面的な応援を受けながら、ようやく7月中旬に終了しました。

国庫補助事業はいずれも圃場整備事業に伴う事前の確認調査で、収穫後の11月中旬～1月いっぱい調査と引き続き1か月間の報告書作成という厳しい制約のなかで実施しています。

蓮池尻遺跡（吉備郡真備町）は、大正四年に銅鐸が出土した遺跡ですが、今日では詳細な出土地点が不明となっております。今回、出土したとみられる一帯が対象地域となっていたことから調査については周辺から大変興味をもたれました。調査の結果、出土地点そのものはわかりませんが、銅鐸が出土したといわれる深さの土層や包含層の状況をつかむことができました。



▲蓮池尻遺跡トレンチ調査

その他の遺跡においても水田下において遺跡の範囲をつかむことができ、それぞれの成果をえることができました。

町村に対する発掘調査の協力や調査指導では、赤磐郡吉井町所在の中世城郭跡「茶臼山城」、小田郡矢掛町所在の同「茶臼山城」はいずれも「町おこし」に伴う整備を目的とした事業の事前調査です。その他3月末までには3件の調査が予定されています。

普及啓発事業では、昨年の11月19日・20日に埋蔵文化財専門職員研修会を実施しました。講師としてお願いした岡山理科大学の鎌木義昌教授からは「瀬戸内の縄文時代」のテーマで岡山県の縄文土器研究の学史や、編年にまつわるエピソードなどを聞くことができ、また、文化庁河原純之主任調査官からは「埋蔵文化財保護の現状と課題」というテーマで、埋蔵文化財保護に関する法律上の問題など当面する課題について実例に即した話を聞くことができました。2日目はスライドを使用しての情報交換を行いました。また、昭和61年1月23・24日は県下を二地区に分けて、埋蔵文化財事務担当職員研修会を実施しました。2日間で54市町村57名の参加がありました。

以上のほか、当文化財センターは展示室を有していることから、小・中学校の春・秋の遠足には多くの学校に利用されています。また、遺跡現場においても、発掘成果を広く一般の人々に知ってもらうための現地説明会を開催しています。



▲百間川沢田遺跡現地説明会

足守川加茂遺跡の発掘調査 —岡山市加茂—

足守川加茂B遺跡は、岡山市の郊外、現在岡山市と倉敷市が境を接するあたりをほぼ南北に流走する足守川の河床に所在します。行政区画からは、岡山市加茂に所属し、足守川の河川改修工事に伴い、昭和57年8月から昭和60年8月にかけて発掘調査を実施しました。

調査は、遺跡の範囲が河川敷内とあって、降雨時の河川増水と軟弱な基盤からの地下水の常時湧出等により難航しましたが、約2,000㎡を全面調査しました。この結果、数多くの貴重な成果を得ることができました。以下、その概要を紹介します。

遺跡は、北東方向から南西方向に伸びた微高地の先端部分に位置し、弥生時代中期中葉から奈良時代にかけての複合する集落遺跡です。

調査の結果、検出できた主な遺構には、竪穴式住居約120軒、土壇291基、溝72本、貝塚1基、その他に柱穴が約600本あり、今後の検討により掘立柱建物の存在も十分予想できます。中心となる時期は、弥生時代後期初頭から古墳時代初頭にかけてで、この間かなり密集した遺構の在り方をみせています。

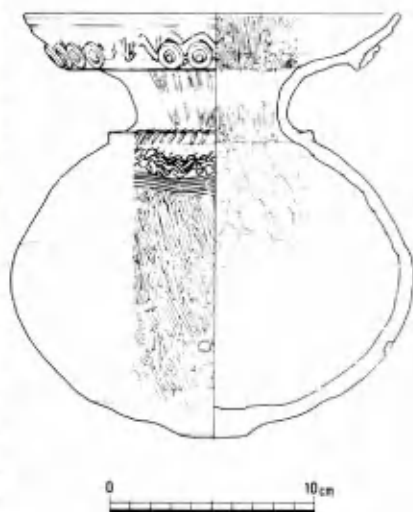
出土遺物は、整理箱に約2,000箱相当の土器を

中心とし、この他にも青銅製品、鉄製品、土製品、骨角器、さらにガラス等が出土しています。特筆すべきものとして多量の在地産の土器に混じって畿内、山陰、山陽西部、四国等の地方からの搬入土器の存在と、出土した小型銅鏡2面のうち1面が朝鮮半島からの舶載品であること等があげられます。これは、当該地域の対外関係の中に畿内はもとより遠く朝鮮半島との交流が存在していたことを物語る資料と考えられます。また、貝塚出土のト骨10数例と前述の鏡、さらに特殊壺形土器とミニチュア土器の存在は、足守川加茂B遺跡の性格の一端に呪術的な祭祀の存在を予想することができます。

なお、河川改修工事の対象となる足守川下流域には、足守川加茂B遺跡以外にも、足守川加茂A遺跡と足守川矢部遺跡が上・下流域にそれぞれ旧河道もしくは低湿地を隔てて存在することが、既に護岸部分等一連の発掘調査によって確認されています。これらは、いずれも遺構の密集度の高さとその内容において足守川加茂B遺跡と比較しても遜色のない遺跡といえます。近接する橋梁遺跡等の弥生墳丘墓との関係において興味もたれます。



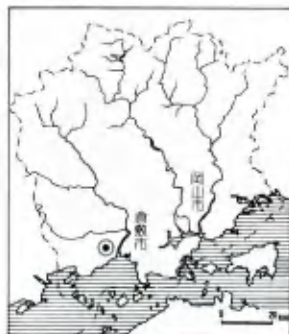
▲発掘調査風景



▲出土遺物

かめやま
亀山遺跡の発掘調査 —倉敷市玉島八島—

亀山遺跡は、岡山市から西へ約30km、山陽新幹線の新倉敷駅にほど近い丘陵上の果樹園に位置しています。かつては海であった水田や町並を見下ろす、海拔40mほどの丘陵上からは鷺羽山や倉敷市街地、遠く瀬戸内海をはさんで香川県や山なみの一部も眺めることができます。遺跡は、この南向きの丘陵斜面一帯にひろがり、地名に由来する「亀山焼」と呼ばれる中世の土器を焼いた窯跡群が存在しています。意欲的な開墾が進められた果樹園や畑からは、無数の「亀山焼」の破片が散らばっており、炭あるいは灰や窯の一部なども見つかっています。また、小さな貝塚も数多く発見されており、「亀山焼」が焼かれた時期と同時期、すなわち鎌倉時代から室町時代にかけての食料の一部を知ることができます。これらの貝塚からは、ハイガイ・ハマグリ・カキなどの貝殻がもっとも多く出土しています。



▲遺跡の位置

今回の発掘調査は、山陽自動車道建設に伴い、事前の記録を残すために行われたもので、昭和58年の確認調査に引き続き、昭和59年9月から同60年9月にかけて行なったものです。この発掘によって窯跡の一部・小貝塚群・柱穴群・灰原



▲窯跡と灰原の広い検出状況

・土器だまり・墓など数多くの遺構と、「亀山焼」をはじめ、中国から輸入された陶磁器・宋銭や土師器・備前焼など、当時の暮らしを物語る多くの手がかりを得ることができました。



▲4号窯の発掘

今回の発掘調査地内で検出された窯跡6か所のうち、完全な形で残っているものではなく、オレンジ色あるいは赤色に焼けた窯の一部を観察してみると、半地下式の登り窯であったことがわかりました。これは、丘陵の斜面を緩かな傾斜をもたせて細長く掘りくぼめ、その上にトンネルのように、わらなどを混ぜた粘土で天井としておった窯の形で、須恵器を焼くための窯と基本的に同じ構造を示しています。窯の入口は、薪を燃やす焚き口がつくられ、そこから燃焼室・焼成室（土器が焼きあがるころ）をへて、天井の奥には煙突が取り付けられるのが一般的です。6基の窯を調べてみると、幅は約2m、全長約6m強、傾斜角度は11～15度の緩かな勾配を示しています。この窯で焼かれた「亀山焼」は須恵器とほとんど同じ色調で、灰色～青色を示し硬さもほとんど同じです。もっとも大きな特徴は、壺や甕の外面に小さなチェック文様のような格子目タタキ目がみられることです。灰原や土器溜りから出土する土器片の中では、この壺・甕の破片がもっとも多く、ついで檜鉢・こね鉢・瓦(平瓦・丸瓦・鬼瓦など)がみられます。これらの「亀山焼」は、岡山県南部をはじめ、広島県西部・四国北部や遠く京都でも発見されることが知られており、瀬戸内海の海上交通によって、「商品」として流通したことがわかります。「備前焼」と違い、「亀山焼」は現在、生産されていませんが、どうして窯の火が消えてしまったのか大きな謎です。

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表(昭和60年度)

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	備考
1	百間川当麻遺跡	岡山市米田	河川改修	4月1日～12月28日	中世の運河、建物、井戸、土壌など多数
2	百間川今谷遺跡	" 今谷	"	10月20日～3月31日	弥生時代末の水田跡、稲株痕
3	百間川沢田遺跡	" 沢田	"	1月6日～3月31日	古墳時代初頭の竪穴式住居、弥生末の水田跡
4	亀山遺跡	倉敷市玉島	山陽自動車道建設	4月1日～9月30日	中世亀山焼の窯跡
5	關井土井遺跡	笠岡市園井	"	9月1日～3月31日	中世の礎石建物を含む館跡
6	鍛冶屋遺跡	" 小平井	"	10月1日～3月31日	中世の集落、製鉄関連遺跡
7	菅生小学校裏山遺跡	倉敷市西坂	"	4月1日～3月31日	炭焼き窯、奈良～平安の建物跡
8	菰池遺跡	" 菰池	本州四国連絡橋陸上 ルート建設	4月1日～7月31日 12月16日～12月21日	縄文早期土器多数出土、弥生時代中期の集落跡
9	城山散布地	" 阿津	"	8月5日～8月31日	確認調査
10	オレントウ遺跡	" 菰池	"	8月19日～8月23日	弥生時代中期包含層
11	柳田散布地	" 児島柳田	"	2月12日～2月26日	確認調査
12	碑田散布地	" 児島碑田	"	2月24日～3月8日	"
13	足守川加茂B遺跡	岡山市加茂	河川改修	4月1日～8月31日	弥生時代から古墳時代の集落跡
14	足守川加茂A遺跡	"	"	9月1日～1月31日	"
15	茶白山城跡	吉井町岡匠	吉井町地域振興事業	4、5、6、9月	中世山城(16世紀)
16	樋元遺跡	総社市三輪	新設高校建設	4月1日～7月15日	弥生時代から中世の集落跡、中世鍛冶炉
17	清実遺跡	勝央町美野	大規模農道建設	10月1日～10月14日	弥生時代から中世の集落跡
18	西奥遺跡	御津町宇垣	工業団地造成	11月25日～12月14日	弥生時代末の墓址
19	美野条里遺跡	勝央町田井	圃場整備事業	6月10日～8月31日	条里遺跡
20	新庄尾上遺跡ほか	御津町新庄ほか	"	11月25日～2月3日	弥生時代から中世の集落跡
21	蓮池尻遺跡	真備町妹	"	11月21日～2月3日	縄文時代後期、弥生時代から中世の集落跡
22	二反田B遺跡ほか	鏡野町原	"	7、8、11、12、1月	弥生時代から中世の集落跡
23	田開谷学校	備前市閑谷	整備事業	9月24日～11月12日	確認調査
24	茶白山城跡	矢掛町矢掛・東三成	町づくり特別対策事業	8月5日～9月20日	中世山城(16世紀)
25	津島江道遺跡	岡山市津島	施設整備事業	7月23日、24日	確認調査
26	堂の前遺跡	美甘村美甘	宅地造成	8月20日～8月23日	"
27	田治部氏屋敷跡	新見市上筒谷	県道改良工事	10月22日～11月8日	中世館跡
28	藤原遺跡	岡山市藤原	施設拡張工事	9月26日～10月12日	弥生時代末の水田跡
29	塚の平古墳	中央町打穴里	宅地造成	3月5日～	
30	カキ谷B1号墳	津山市種	県道改良工事	3月10日～	
31	玉井山相遺跡	瀬戸町観音寺	短大建設	4月、3月5日～	

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (0862)93-3211

●交通案内

- ・国鉄山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・国鉄吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・国鉄岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分

